

邁 進

今後の建設産業を考え目的に向かってともに歩もう

第 53 代部会長 西島 有以

【はじめに】

私は、2006 年に熊本ブロック建設クラブに入会させていただき、多くの人に出会い、様々な活動、運動に携わらせていただきました。中でも、日本青年会議所建設部会への出向では、沢山の経験や出会いに恵まれました。折しもこのころ、「平成 28 年熊本地震」が発災しましたが、全国各地の建設部会の方々より様々なご支援、そして多くの温かいお言葉を頂いたことは、決して忘れることのできない出来事です。このような素晴らしい建設部会をさらに飛躍させるとともに、その素晴らしさを全国に発信し、より多くの会員に実際に経験いただけるよう努めます。

また、私が最も深く感じる建設部会の魅力の一つに、現役メンバーとシニアの先輩方との深い繋がりががあります。日々の活動や運動を通して多くの事を学ばせていただきながら交流を深めることができるというこの特色は、建設部会ならではのものであり、このような機会を大切にし、今後に繋いでいきたいと考えます。

創立以来、諸先輩方が築き上げてこられた日本青年会議所建設部会の歴史と伝統を継承し、次の世代に確実にバトンを繋げるよう、誠心誠意努めさせていただきます。

【確固たる経営基盤の構築】

建設業は、外部環境に大きく影響を受ける業界です。その点からは、復興事業が継続していることに加え、2020 年開催の東京オリンピック需要が重なる現在は、盤石な経営環境にあると言えます。

そのような中、業界共通の悩みとなるのが、「仕事はあるが、人手が足りない」というものです。現在、各企業がベトナムなどを中心に技能実習生を受け入れ、人材を確保しています。この技能実習制度は、2017 年 11 月 1 日施行の「技能実習法」によって大きく見直され、実習期間は最長期間が 3 年から 5 年に延び（いったん帰国後、1 カ月以上の間を置けば、再び最大 2 年間の実習が可能）、受け入れ人数枠も増加（常勤従業員数に応

じた人数枠が最大5%までとされていたのが、最大10%までに)といった改正が行われています。

しかし、建設業に従事する人口は減少しています。全産業の就業者数はほぼ横ばいで推移しているのに対し、建設業の就業者数は年々減少の一途をたどっています。しかも、50代以降の建設業従事者数はあまり変わらないまま、20代、30代の若年齢者層が半減しているのです。そのため、今後の高年齢者層の退職に伴い、建設業の就業者数は益々不足していくことが予想されています。

この問題には、建設部会としても以前から多大な関心を寄せて取り組んできましたが、本年度は、今後の建設産業を支える「担い手の確保・育成」そして、「若者が夢を持てる産業」として、その技術を継承・発展させるために、労働環境の改善などの「働き方改革」の加速化や人材育成に取り組むとともに、社会インフラの継続的な創造・維持に不可欠な産業である建設業の魅力やそれに携わることの「喜び」「誇り」についての情報発信が必要であると考えております。

【活発な交流】

建設部会の魅力は、全国各地から集う2000名超の会員によって編まれるネットワーク、そして、シニアの先輩方と現役メンバーが共に活動できることにあります。本年度も引き続き現役メンバー、シニアメンバー間の交流を活発に行い、さらに発展的な交流活動を行っていきたいと考えます。その中の一つとして、継続事業でもあります国際ミッションを、本年度も実施します。海外での交流を通して、海外の技術や歴史に触れ、新たなビジネスチャンスを生み出し、さらに会員間での交流を深める絶好の機会と考えます。

また、建設部会の活動を行う上では、会社からの理解も勿論ですが、一番身近な存在である家族の理解や支えが不可欠です。支えがあるからこそ活動ができることを再認識し、感謝するとともに、その気持ちを形にして伝える機会を設けたいと考えます。家族との、そしてメンバー相互の信頼関係が築かれ、部会の目的であるビジネスを中心とした会員の交流にも繋がり、会員企業の成長を図ることができるものと確信します。

【不測の事態への備え】

建設産業は、災害時における応急復旧活動など、地域社会の維持に不可欠な役割を担っています。

日本は、世界でも有数の自然災害発生国です。地震、台風、洪水、豪雪等の様々な自然災害が、世界総陸地の僅か0.3%にも満たない国土で発生し、その被害額は、実に世界全体の17%に達しています。近い将来、大規模地震が発災する可能性も指摘されています。

このような災害発生時、建設業の企業は、「行政と協働していち早く現場に駆けつけ、迅速に応急復旧を行うこと」や、「ライフラインの復旧を通じ、住民生活の救援にあたること」など、様々な役割を担います。この役割を果たすためには、企業自らが事業活動を継続できる体制を整えていなければなりません。我々建設部会としても、災害発生時に生じ得る問題や事前の備えについて、学び、会員間で共有することに取り組みます。

【全国部会員大会】

近年、全国部会員大会の登録数が増えています。これは、設立50周年の記念式典・祝賀会を経験したことで、皆様が改めて建設部会の素晴らしさを感じ、機運が高まった結果であると考えます。

全国各地から会員の皆様が集まる全国部会員大会では、復興事業に加え2020年開催の東京オリンピック需要が重なる今、私たちが取り組まなければならない「今後の建設産業の問題と改善策」について学びを得られる内容とするとともに、諸先輩方に感謝をお伝え申し上げる場となるよう、開催させていただきます。

【建設部会の魅力の発信・会員支援】

全盛期は4000名以上であった会員数は、現在2000名と半数以下になっており、会員数の減少は私たちにとって重大な問題となっています。本年度は、この問題に取り組むのは勿論のことですが、まず現会員の方々に建設部会の魅力を再確認していただきたいと考えます。50周年を機に建設部会全体が盛り上がっていることを好機と捉え、所属されているメンバー一人ひとりにしっかりと会員拡大の必要性を認識いただけるよう、発信し続けなければなりません。

また、昨年に引き続き建設部会の情報を一括管理・配信することで、よりよい環境下で部会活動が行えるよう支援するとともに、災害時に迅速か

つ正確な対応ができるよう、常に最新の災害対策マニュアルや組織系統を作成し、建設部会固定の事務局の設置も行います。

メンバーの増加は新たな発想を生み、新たな事業となつて、結果的に新たな友情を育むこととなります。その為にも、多くの方に建設部会の魅力をお伝えするとともに、入会候補者の方々や設立・復会予定クラブへの支援を行い、新しい風を吹かせて、建設部会における新たな友情に繋げていきます。

【関係省庁との意見交換】

本年度も引き続き、建設部会に関係する省庁や各団体との連携を積極的に行ってまいります。

日本の政治・行政の中心でもある各省庁との間で意見交換や問題提起を行い得ることも建設部会ならではのあり、青年経済人として、このチャンスを最大限に活かさなければなりません。建設部会が継続して行ってきた意見交換会を通して、現場で感じている事や経験を伝え、多くの方々の意見交換や情報発信を行います。また、第10回目を迎える「建設トップランナーフォーラム」にも、昨年度同様に多くのメンバーで参加・参画し、各省庁や様々な分野の方々と積極的に交流させていただき、多くの学びを得たいと考えます。そして、省庁関係者との繋がりを一過性のものにするのではなく、今後に繋がる継続的な関係を構築することで、安心して生活できる真に豊かな社会づくりの貢献に繋がっていきたいと考えます。

【結び】

建設部会の輝かしい歴史と共に、諸先輩方が連綿と受け継いでこられた思いを継承し、これからも魅力ある組織であり続けるために、建設部会の存在意義をしっかりと認識し、伝えていきます。また、この絶えず変化し続ける建設業界において、会員それぞれの置かれている立場は異なりますが、全国的なネットワークを活用し、情報を発信・共有していくことで、会員企業の発展に生かしていただきたいと考えます。

同じ時間を共有する仲間と共感しあい、ともに成長できる1年となるよう務めて参りますので、皆様のご理解及びご協力をお願い申し上げます。